

榛原地域就学前施設統合準備委員会だより No.1



令和6年10月発行

宇陀市榛原地域就学前施設統合準備委員会事務局
(宇陀市こども未来課) TEL 82-2236 IP 88-9080

宇陀市は、榛原幼稚園、榛原東幼稚園、榛原北保育園の3園の統合園舎を整備し、「幼保連携型認定こども園」に令和8年4月に移行予定です。

統合及び開園に向けて、就学前施設の統合準備に関することやその他統合に必要な事項に関することを協議するために、「宇陀市榛原地域就学前施設統合準備委員会」を設置しました。委員会では、園旗、園章、園歌、制服、PTA規約、園バスルートなど主にソフト面を協議します。

今後、会議の内容について、榛原地域3園に通園されているご家庭の保護者の皆様に「榛原地域就学前施設統合準備委員会だより」を通じてお伝えさせていただきます。

統合準備委員会の構成

◇ 榛原幼稚園の保護者代表	◇ 榛原幼稚園の教職員代表	◇ 園評議員
◇ 榛原東幼稚園の保護者代表	◇ 榛原東幼稚園の教職員代表	◇ 榛原地域の主任児童委員代表
◇ 榛原北保育園の保護者代表	◇ 榛原北保育園の教職員代表	◇ こども未来課長

榛原地域就学前施設等建設の目的

宇陀市は、第2期宇陀市子ども・子育て支援事業計画の基本理念「みんなで咲かせよう 親子の笑顔 安心して子育てできるまち 宇陀市」の実現に向けて、「子どもが心身共に健やかに成長するための支援」「子育てを支援する生活環境づくり」を充実させることを目的に、施設の老朽化が進んでいる榛原幼稚園、榛原東幼稚園、榛原北保育園を統合し、幼保連携型認定こども園を整備します。

また、妊娠期から出産・子育て期を切れ目なく支援するため、妊産婦・子どもの相談支援・子育て家庭の交流など、地域の子育て支援の拠点として、こども家庭センターを同施設へ設置します。

建設場所の選定

建設場所は、現在未利用の旧奈良県東部農林振興事務所と、隣接する旧三洋堂書店跡地です。旧東部農林は、建設に際して解体予定(現在工事中)ですが、宇陀市の近鉄榛原駅周辺地区における持続的発展及び活性化のためのまちづくりに資する事業(こども園等の建設)として活用することで県の支援が受けられます。

また、近鉄榛原駅周辺地区は、「立地適正化計画」において、都市機能誘導区域と設定され、この計画に位置づけた誘導施設(こども園等)の整備には、国の財政支援が受けられます。

この土地は、宇陀川を南に配し、自然豊かな風景があり、市内各地からのアクセスが良く、現時点で医療施設や商業施設などの生活サービス施設が集約されていることから、若い世代の居住人口が多く、子育てニーズが高い地域です。県道榛原菟田野御杖線に接しており、園児の送迎時の保護者・送迎バス車両の安全な動線が確保でき、用地面積は約6,810㎡とこども園及びこども家庭センターの設置や運動会が開催できる園庭に必要な面積を有しています。

こども園の概要

【幼保連携型認定こども園】

定員：180人

人口推計及び入園児童の予測推計に基づき設定

開園：令和8年4月開園予定

【子育て支援事業の内容等】

- ◇ 一時預かり事業
- ◇ 延長保育事業
- ◇ 地域子育て相談機関
(子育て相談・情報提供)
- ◇ 病後児保育事業



第1回 統合準備委員会 令和6年9月26日 宇陀市役所大会議室

① 統合準備委員会設置要綱について

② 榛原地域就学前施設等整備事業説明

③ 保護者会(令和6年8月3日開催)においていただいた意見よりソフト面の対策が必要となる事項

➤ 近年、気候変動により頻発化・激甚化している水害に対する対策

平成29年6月より水防法が改正され、浸水想定区域や土砂災害警戒区域に位置し、市町村地域防災計画に定められた要配慮者利用施設の所有者または管理者は、「避難確保計画」の作成と避難訓練の実施が義務付けられています。要配慮者利用施設の範囲は、有料老人ホームや障がい者支援施設、病院などで、幼稚園・保育園・こども園も含まれます。

建設予定の榛原地域就学前施設は、浸水想定区域に立地するため、これに該当し、「避難確保計画」を市が作成します。「避難確保計画」は、水害や土砂災害などの災害が発生する可能性がある場合に、施設利用者の円滑かつ迅速な避難を確保するために必要な防災体制や訓練などに関する事項を定めた計画です。作成した計画について、今後ご報告いたします。

➤ 前面道路(県道榛原菟田野御杖線)の混雑回避策

送迎時のスムーズな車の出入りを図るため、道路の混雑状況(8月に交通調査実施済み)、送迎ルート(園内の動線)、駐車スペースの分けなどを協議いただきます。

➤ 園駐車場の利用について

行事(運動会など)の際の駐車場利用について、園内駐車場、職員駐車場を使用したシミュレーションを作ります。今後提示する案について、協議いただきます。

➤ 園バス利用について

利用予定数と園児の居住エリア把握のため、通園意向調査(対象：榛原地域1歳児、2歳児、3歳児 方法：ロゴフォームよりアンケート形式 通園児には情報発信ツール「ゴドモン」から配信、未就園児には郵送にて案内実施時期：令和6年内に実施)を実施します。調査結果を基に園バスルートの検討をいただきます。

④ その他協議・質問事項(当日回答に説明を加えています)

Q1. (委員) 建物内装について、木質化を図るとあるが、乳児保育室では、床材はどうなっているのか。床が木の板で、リラックスして過ごせる空間を確保できるのか。

A1. (事務局) 床材の表面はリノリウム(天然素材から作られ、汚れにくく抗菌性、耐久性に優れています)を使用し、衝撃吸収材、二重床の設えとなっています。併せて現在の榛原北保育園の乳児保育室では、絨毯を使用するなどしていますので、同様に備品対応も行い、お子さんがリラックスできる保育室にします。

Q2. (委員) 新しく解説する病後児保育室は、榛原就学前施設に在籍する園児以外も利用できるのか。

A2. (事務局) 現在、大宇陀こども園で病後児保育室「りすぐみ」を開室していますが、大宇陀こども園と同様に、「市内在住または在園の生後6か月から小学校3年生までのお子さん」が利用できます。通常保育室との動線が重ならない位置に専用の出入り口を設け、室内は病気などの回復期にあるお子さんが安静に過ごせる安静ゾーンと、制限を設けつつも活動ができるゾーンに分かれています。

Q3. (委員) 現行の3園の跡地は活用するのか。

A3. (事務局) 公共施設の適正な管理、有効活用を図る目的で市のファシリティマネジメント推進委員会が設置されています。跡地については全庁的に検討しているところです。決定次第ご報告します。

Q4. (委員) 子ども達との関係、学校づくりの観点から、2年後の開園に向けて、スムーズなスタートを切るためには、先生方のお力に頼ることが多々ある。また、1つの園に統合されるということは、卒園時には3つの小学校に分かれていくことになり、幼保小の連携は必要不可欠だが、小学校が分かれることは今後解消するのか。

A4. (事務局) 現在教育委員会において学校適正化の推進について協議しているところです。進捗状況について情報連携をとりながら、「榛原就学前施設こども家庭センター建設基本計画」に掲げるとおり、榛原就学前施設では、子どもの成長を切れ目なく支える観点から、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、幼児・児童の実態に応じた指導方法について一貫性のある教育を行います。

➤ 【協議事項】3園の閉園式の内容について

榛原地域就学前施設開設にともない、榛原幼稚園、榛原東幼稚園、榛原北保育園が令和8年3月をもって閉園となります。各園の閉園準備として、閉園式をどのような内容で行うかを検討していきたいと考えています。

市では、来年度予算を確保するために、閉園式の規模・内容について、各園のPTAにおいて協議いただくよう依頼しました。

➤ 【協議事項】3園のPTA会費の精算方法について

◇ (委員) 現在各園のPTAにおいて、榛原就学前施設開園に向けてPTA会費の調整を行っています。

◇ (委員) 児童数の減少、物価高騰の影響などを考慮し、来年度予算を検討、会費の見直しを行います。

◇ (委員) 令和8年の統合時に3園の会費にばらつきがないよう、3園の会費は合わせて行く方がいいと思われます。

PTA会費精算方法については引き続き各園PTAにおいて協議を進め、今後委員会において協議・調整いたします。

◆ 次回の統合準備委員会は令和7年1月中旬ごろを予定しています